(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2006-124958
(P2006-124958A)
(43)公開日　平成18年5月18日(2006.5.18)

(51)Int.Cl.			F I			テーマコード（参考）
E03C	1/262	(2006.01)	E03C	1/262		2D061
A47K	1/00	(2006.01)	A47K	1/00	U	
A47K	1/04	(2006.01)	A47K	1/04	G	
A47K	1/14	(2006.01)	A47K	1/14	A	
E03C	1/24	(2006.01)	E03C	1/24	C	

審査請求 未請求　請求項の数 2　OL　（全 10 頁）　最終頁に続く

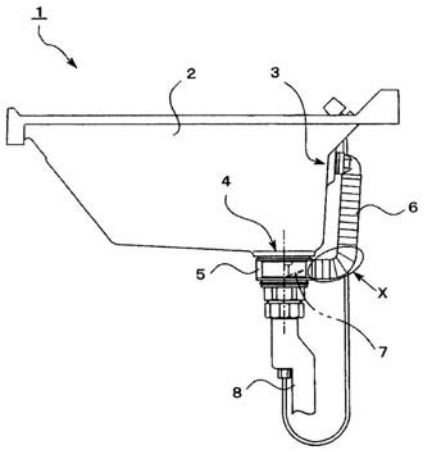
(21)出願番号　特願2004-311586 (P2004-311586)
(22)出願日　平成16年10月26日 (2004.10.26)

(71)出願人　000005832
松下電工株式会社
大阪府門真市大字門真１０４８番地
(74)代理人　100093230
弁理士　西澤　利夫
(72)発明者　植松　靖雄
大阪府門真市大字門真１０４８番地　松下電工株式会社内

Fターム(参考)　2D061 DA02　DC10　DD09　DE15

(54)【発明の名称】洗面化粧台

(57)【要約】
【課題】　洗面化粧台の使用時に、排水をオーバーフロー管の内部に注水して洗浄することで、滞留した汚れの洗浄や滞留した水の入れ替えをし、臭気の発生を抑制することができる、洗面化粧台を提供する。
【解決手段】　洗面ボール２にオーバーフロー口３が設けられた洗面化粧台１において、洗面ボール２底部の排水口４から排水栓５内へと流れ込む排水の少なくとも一部を、オーバーフロー口３から排水栓５までを連結しているオーバーフロー管６の内部に注水するように、案内堰７がヘアキャッチャー９に設けられている。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
洗面ボールにオーバーフロー口が設けられた洗面化粧台において、洗面ボール底部の排水口から排水栓内へと流れ込む排水の少なくとも一部を、オーバーフロー口から排水栓までを連結しているオーバーフロー管の内部に注水するように、案内堰がヘアキャッチャーに設けられていることを特徴とする洗面化粧台。
【請求項２】
オーバーフロー口とオーバーフロー管との連結箇所には、オーバーフロー口からの排水の流れによって開口する蓋体が設けられている請求項１記載の洗面化粧台。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本願発明は、洗面化粧台に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来より、洗面ボールから水が溢れ出ないようにするために、貯水ボール（洗面ボールに相当）に溢水口（オーバーフロー口に相当）が設けられた洗面化粧台が知られている（たとえば、特許文献１）。この洗面化粧台は、貯水ボールの上縁近傍に溢水口が設けられており、この溢水口から排水栓までを連結管（オーバーフロー管に相当）で接続している。そして、このような構成とすることで、貯水ボールから溢れ出る水は、溢水口から流れ込んで、連結管を通じて、排水栓へと排水させることができるようにしている。
【特許文献１】実開平4-61163号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
しかしながら、上記特許文献１に記載の洗面化粧台においては、オーバーフロー管の内部に、水が常時流れないため、オーバーフロー管の内部には汚れや水が滞留し、これら滞留した汚れや水の入れ替えが頻繁でないことから、臭気が発生するという問題があった。
【０００４】
そこで、本願発明は以上の背景から、上記従来の問題点を解消すべく、排水をオーバーフロー管の内部に注水して洗浄することで、滞留した汚れの洗浄や滞留した水の入れ替えをし、臭気の発生を抑制することができる、新しい洗面化粧台を提供することを課題としている。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
本願発明は、上記の課題を解決するものとして、第１には、洗面ボールにオーバーフロー口が設けられた洗面化粧台において、洗面ボール底部の排水口から排水栓内へと流れ込む排水の少なくとも一部を、オーバーフロー口から排水栓までを連結しているオーバーフロー管の内部に注水するように、案内堰がヘアキャッチャーに設けられていることを特徴としている。
【０００６】
また、第２には、オーバーフロー口とオーバーフロー管との連結箇所には、オーバーフロー口からの排水の流れによって開口する蓋体が設けられていることを特徴としている。
【発明の効果】
【０００７】
第１の本願発明によれば、洗面化粧台の使用時に、排水をオーバーフロー管の内部に注水して洗浄することで、滞留した汚れの洗浄や滞留した水の入れ替えをし、臭気の発生を抑制することができる。
【０００８】
また、第２の本願発明によれば、上記第１の発明の効果に加え、オーバーフロー口から

の臭気の漏出をも抑制することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【０００９】

本願発明は、上記のとおりの特徴をもつものであるが、以下に、添付した図面に沿って、本願発明の実施形態について詳細かつ具体的に説明する。

【００１０】

図１は、本願発明の洗面化粧台の一実施形態を例示した側面図である。図２は、図１の洗面化粧台の排水栓部分を示した要部拡大図であり、（Ａ）は断面図、（Ｂ）は側面図である。

【００１１】

図１および図２に例示したとおり、本願発明の洗面化粧台１は、洗面ボール２内の水量が過剰の場合、洗面ボール２から水が溢れ出ないようにするため、洗面ボール２の上縁近傍にオーバーフロー口３が設けられている。通常の排水は、洗面ボール２底部に設けられている排水口４に水が流れ込み、排水口４の下方に配設されている排水栓５を経て、ついで排水管８を通じて下水へと排出される（通常の排水経路）。洗面ボール２における過剰な水は、オーバーフロー口３に流れ込んで、オーバーフロー口３から排水栓５までを連結しているオーバーフロー管６を経由した後、上記の通常の排水経路と同様に排水栓５、ついで排水管８を通じて下水へと排出される。そして、本願発明の洗面化粧台１をさらに具体的に説明すると、洗面化粧台１の使用時に、洗面ボール２の底部に設けられている排水口４から排水栓５内へと流れ込む排水の少なくとも一部を、オーバーフロー管６の内部に向かって導いて注水するように、案内堰７がヘアキャッチャー９に設けられている。この案内堰７は、効率よく排水口４からの排水をオーバーフロー管６の内部へと導いて注水するために、オーバーフロー管６に向かった上り傾斜状に形成されていることが好ましい。

【００１２】

そして、排水口４から流れ込む排水が、排水栓５を経て排水管８を通じて下水へと排出されるという通常の排水方向で流れるとともに、この排水の少なくとも一部が、ヘアキャッチャー９に設けられている前記案内堰７によって、オーバーフロー管６の内部へと注水され、オーバーフロー管６の内部（特に矢印Ｘに示した箇所近傍）に滞留した汚れの洗浄や滞留した水の入れ替えをし、臭気の発生を抑制することができる。

【００１３】

図３は、本願発明の洗面化粧台におけるヘアキャッチャーの一例を示した斜視図である。

【００１４】

図３に沿って、本願発明の洗面化粧台におけるヘアキャッチャー９について説明すると、ヘアキャッチャー９は、外側部材９１と内側部材９２とから構成されている。この外側部材９１には、たとえば、円筒状の筒体９１１の上下、かつ、周方向にフランジ９１２を設けるとともに、この上下のフランジ９１２から外側方向、かつ、周方向に捕集突起９１３が突設されている。つぎに、内側部材９２について説明すると、内側部材９２には、たとえば、円筒状の筒体９２１と、この筒体の軸芯部に挿通した筒軸９２２との間に捕集リブ９２３を放射状に一体に設けて形成されている。そして、この放射状の捕集リブ９２３の上面が、内周側の筒軸９２２から外周側の筒体９２１に向かって徐々に高さが低くなるようにして全体を傘状に形成している。

【００１５】

そして、このように構成されているヘアキャッチャー９に、上記のとおり、案内堰７が設けられている。具体的に説明すると、たとえば、ヘアキャッチャー９の内側部材９２位置から上り傾斜を有するようにして、捕集突起９１３の上部に案内堰７を設けてもよい。

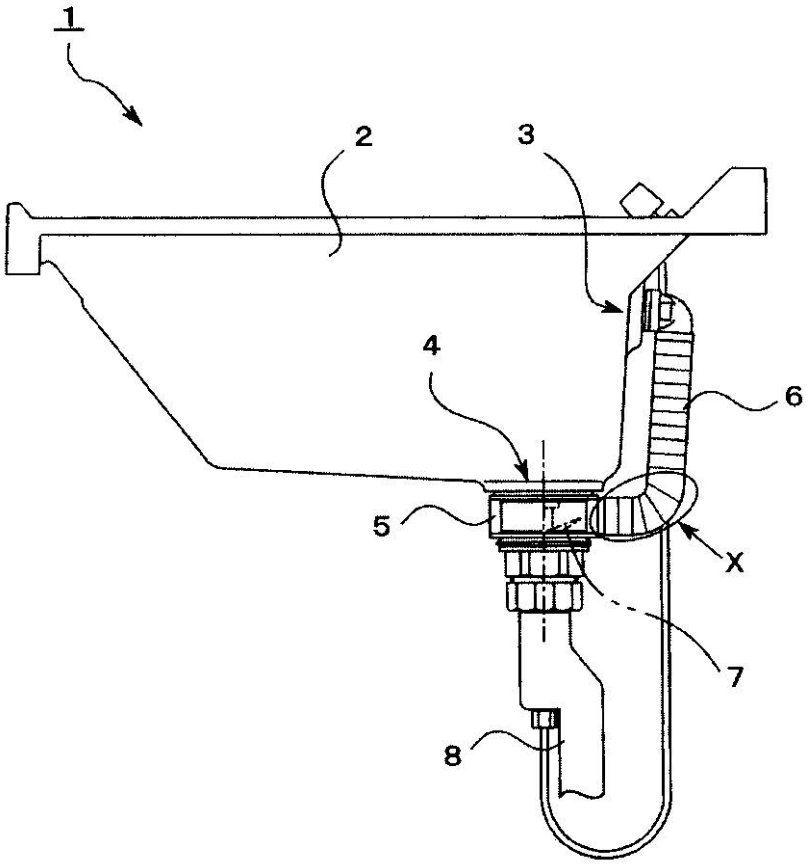
【００１６】

なお、図３に例示したヘアキャッチャー９は、外側部材９１の筒体９１１内に内側部材９２の筒体９２１をはめ込むことで、組み立てられる。また、このヘアキャッチャー９上部には、通常、洗面ボールの排水口を開閉するケレップ９３およびケレップ軸９４が備え

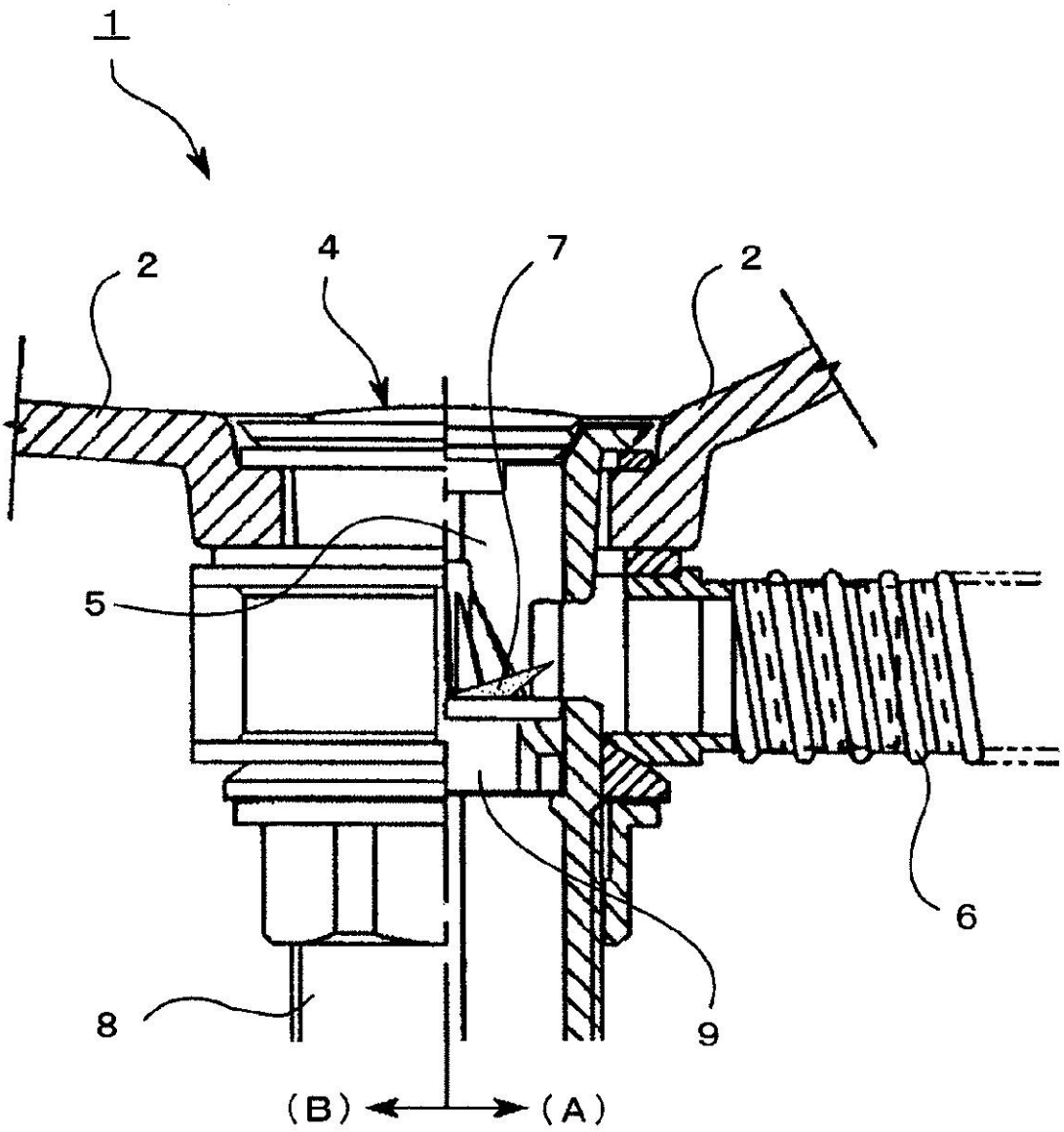
られている。
【００１７】
このヘアキャッチャー９は、図２に例示したとおり、洗面ボール２の排水口４内にセットされている。
【００１８】
このような構成を有する本願発明の洗面化粧台１によって、洗面化粧台１の使用時に、従来のオーバーフロー口３から流れ込む排水およびこの排水によるオーバーフロー管６の内部の洗浄だけでなく、洗面ボール２底部の排水口４から流れ込む排水の少なくとも一部を、オーバーフロー管６の内部に注水して洗浄することができ、滞留した汚れの洗浄や滞留した水の入れ替えが効率よくでき、臭気の発生を抑制することができる。
【００１９】
図４は、図１の洗面化粧台のオーバーフロー口とオーバーフロー管との連結箇所を示した要部拡大断面図である。
【００２０】
そして、この図４に例示したように、本願発明の洗面化粧台１は、オーバーフロー口３とオーバーフロー管６との連結箇所、より具体的には、オーバーフロー管６の入口に、排水Ｗの流れによって開口する蓋体１０が設けられている。つまり、オーバーフロー口３から排水Ｗが流れ込んだ（すなわち、洗面ボール２内の水量が過剰の状態）ときには、蓋体１０が矢印にて示すように開いてオーバーフロー口３を開口し、排水Ｗはオーバーフロー管６を通じて流れていく。他方、排水Ｗの流れ込まない（すなわち、洗面ボール２内の水量が適当である通常の使用時）ときには、蓋体１０がオーバーフロー口３を排水方向側から塞ぐようにして閉じる。このときの蓋体１０の開閉をスムーズにするため、排水Ｗが流れ込むときは開き、排水Ｗが流れ込まないときは閉じることができるように付勢した、バネ等を装着した蝶番１１を介して蓋体１０を取り付けるとよい。
【００２１】
なお、この蓋体１０の形状としては、オーバーフロー口３を覆って塞ぐことができれば、その形状は特に限定されるものではなく、たとえば、円形や矩形等でもよい。
【００２２】
このような構成にすることで、上記の各種の作用効果に加えて、臭気をオーバーフロー口３から漏出することをも抑制でき、快適に洗面化粧台１を使用することができる。
【００２３】
もちろん、本願発明の洗面化粧台は、以上の例示によって限定されるものではく、その細部については様々な態様とすることが可能であることはいうまでもない。
【図面の簡単な説明】
【００２４】
【図１】本願発明の洗面化粧台の一実施形態を例示した側面図である。
【図２】図１の洗面化粧台の排水栓部分を示した要部拡大図であり、（Ａ）は断面図、（Ｂ）は側面図である。
【図３】本願発明の洗面化粧台におけるヘアキャッチャーの一例を示した斜視図である。
【図４】図１の洗面化粧台のオーバーフロー口とオーバーフロー管との連結箇所を示した要部拡大断面図である。
【符号の説明】
【００２５】
１　洗面化粧台
２　洗面ボール
３　オーバーフロー口
４　排水口
５　排水栓
６　オーバーフロー管
７　案内堰

８　排水管
９　ヘアキャッチャー
　９１　外側部材
　　９１１　筒体
　　９１２　フランジ
　　９１３　捕集突起
　９２　内側部材
　　９２１　筒体
　　９２２　筒軸
　　９２３　捕集リブ
　９３　ケレップ
　９４　ケレップ軸
１０　蓋体
１１　蝶番
Ｗ　排水

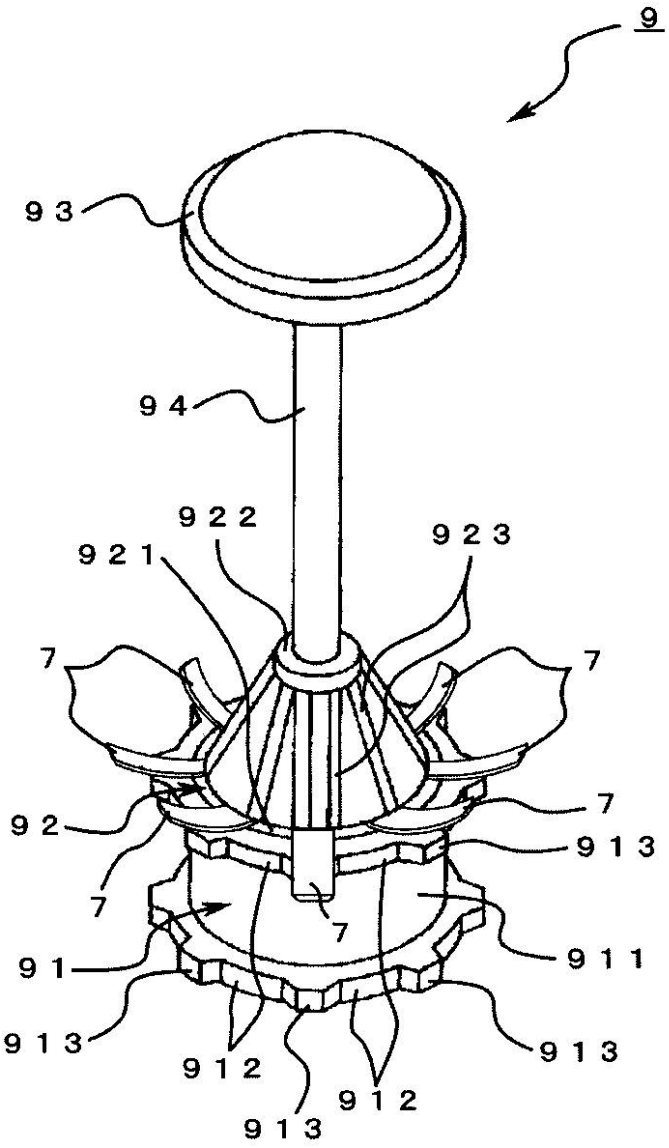
【図１】



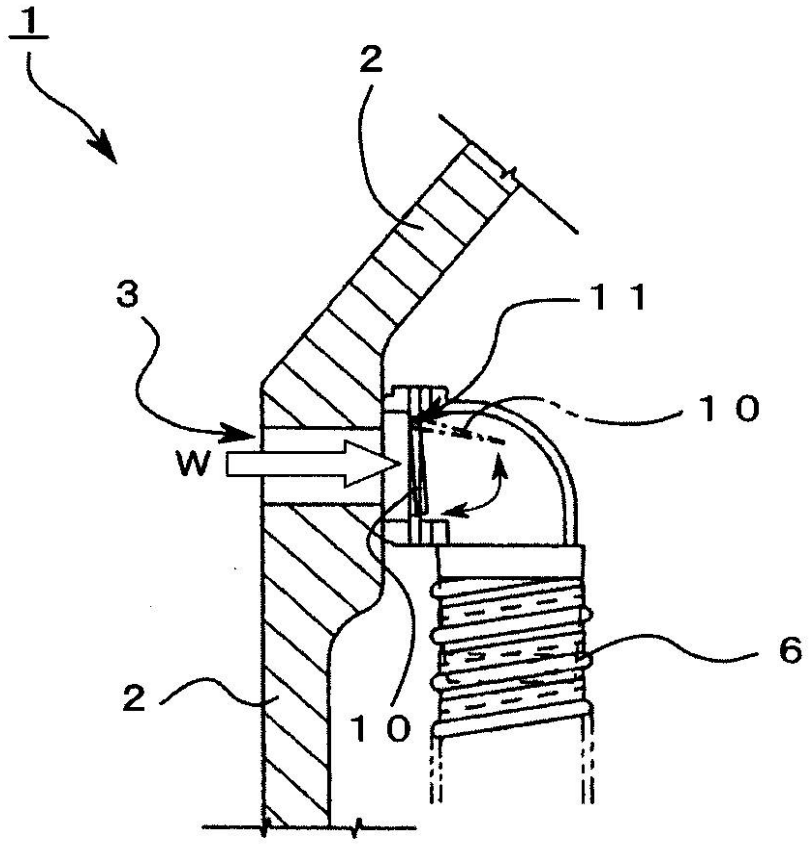
【図２】



【図３】



【図４】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.	FI	テーマコード（参考）
Ｅ０３Ｃ　1/298　(2006.01)	Ｅ０３Ｃ　1/298	